

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成29年1月10日（火）

午後 1時30分 開会

午後 2時25分 閉会

場所 : 全員協議会室

[報告案件]

1 半田市一般廃棄物処理基本計画（案）パブリックコメントについて

笠井厚伸市民経済部長：資料に基づき説明

質疑なし

2 介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）について

藤田千晴福祉部長：資料に基づき説明

質疑なし

3 （仮称）衣浦大橋整備促進期成同盟会設立総会の開催について

榊原康仁建設部長：資料に基づき説明

石川英之議員：衣浦大橋は現在2本あり3本目を建設中だと思いますが、期成同盟会がなくてもできるものはできていく。その中で今回期成同盟会を発足するきっかけとなったのは何か。あわせて、先ほどの説明で今後の予定として要望、要望と言っていました、具体的に半田市としてのビジョンの中で何年度までに架け替えをしたい。というものがあればここで教えてください。

榊原康仁建設部長：現在行われている事業は、半田市側では交差点改良ということで今のトラス橋にトレーラーと乗用車が一緒に回っていけるというような交差点改良と高浜側では立体交差と高浜市から半田市に来る南側の左折レーンの設置を行っています。この計画は県の計画で確定しています。これから順番にやっていますが北側のトラス橋については、一切そういった計画がないです。また橋の架け替えになりますとかなり多額の費用がかかるということで新たに引き続きトラス橋の架け替えをやっていくためにはこのような期成同盟会を立ち上げて関係市町で一緒になって要望して働きかけすることが重要でありますので今回立ち上げるというものです。引き続き北側のトラス橋を架け替えたいということです。半田市としてのビジョンは、現在行われている整備が29年に交差点改良と高浜市の立体交差が終わります。その後左折レーンについては、31年の予定でしたが、全線になるということで31年から少し遅れます。現在いつまでにできるという確定はしていません。その後に引き続きトラス橋の整備にかかってほしいと思っています。半田市としてはできれば10年以内、もっと早くしていただければ8年以内には完成していただければ有難いかなというふうに思っています。以上です。

#### 4 半田市立半田病院新病院建設候補地（赤レンガ東土地）検討会議について

三浦幹広半田病院事務局長：資料に基づき説明

中村宗雄議員：2点お聞きします。まず1点目は、いつまでに答えを出すのか。会議の予定は書かれていますが、この期限をどこかできって答えを出していかないと終わらない中でいつまでに答えを出すかということが1点。もう1点はその出てきた答えが赤レンガが適なのか否なのかわかりませんが、市長は出てきた答えをどのように扱うのか。出てきても政治判断を加えて市長が判断をされるのか。それともこの検討会議の判断を尊重するのか。この2点をお聞きしたいと思います。

三浦幹広半田病院事務局長：まず1点目のいつまでにということですが、今年度3月中には結論を出したいと事務局では考えております。2点目の答えについては、この会議でそれぞれメリット・デメリットがでてくると思います。それについてどのような問題があるのか、委員の皆さまに出していただき、その結果を見て市長が判断するものと考えております。

榊原純夫市長：最終的には私が決断せざるを得ないと思っています。以上です。

中川健一議員：この会議の性質がよくわからないのですが、例えばあり方検討委員会はある一定の結論を出してその結論を市長に答申して市長がそれを受け入れたということですが、例えばこの会議は議論をきちんとしてメリット・デメリットを明確にすることが目的の会議なのか、会議体として何かの結論を出すことが目的の会議なのか、どちらでしょうか。

三浦幹広半田病院事務局長：結論を出す会議ではありません。あくまでもメリット・デメリットについて審議していただき、それを含めて市長が判断するものと考えております。

榊原純夫市長：少し病院事務局長の答弁と違うかもしれませんが、適否についても当然答えを出していただくつもりでおります。ただどのような答えがでてくるかわかりませんのでそれを踏まえてどこに造るのかは私が決断をすることになると思っています。以上です。

中川健一議員：僕は少しやり方が曖昧なのかなという気がしますが、ということは例えばこの会議でどのような結論が出るかわからないけれども、結論を出すためにどういう手続きを踏んでやるのか。例えば多数決で最後は結論を出すのか。あるいは全会一致で結論を出すのか。それすらまだ決めていないのか。

（他に発言する者あり）

中川健一議員：設置要綱がまだないのか。わかりました。

新美保博議員：違う見方をしますと、あり方検討委員会がある程度の答申を出しましたよね。市長はそれに基づいて進めていくと言いましたよね。そこまではいいんです。ある一部の市民の方、再考する会の方がこういう案はどうだと取り上げたら、こういった検討会議が設けられたというやり方は今後もあるのか。今までそんなことはやっていない。どういう形かわからない。適否はわからない。適否は今から検討する、そういうことはある意味差し戻しだよね。そういうことはあるのか。

榊原純夫市長：差し戻しとは思っていませんが、これからいろいろな事業をしてい

く中でいろいろなご意見がありますので、あくまでもケースバイケースで、今回のことに関しては特例という用語がありますが、そのように思っています。以上です。

新美保博議員：では簡単に聞きますが、ではなぜ当初からこれを考えなかったのか。市庁舎を建てる時に検討したけど、向こうは駄目だということを僕は聞いた覚えがある。それで今さらもう1回あっちに病院を造るという話は通るのか。

藤本哲史副市長：私は最初のあり方検討会議の委員でもありますのでその立場からお答えさせていただきますと、最初に新しい病院を建設する候補地をご存知のとおり市街化区域と市街化調整区域の中から可能な面積や位置関係をピックアップして候補地を挙げてその候補地の中からどこが最も早く、そして効率的に建設できるかということで職員駐車場を選びました。ただその中には赤レンガ東土地については候補地としては挙げておりませんでした。それは私どもからすれば20数億もかけて赤レンガ建物や広場を整備し、今後観光の拠点としていくという方針を持っている中でそこに建設するという選択肢はないという考えから提案としては挙げておりませんでした。ただ今回ハウジングまで整理して全体としてどうかということを改めて問いとしていただきましたので、それはまだ検討していないテーマでしたので新たな検討委員会を設けてそれだけを特化して検討するという器をつくるべきだという判断をして今回検討会議を設けたものでございます。以上です。

新美保博議員：言い訳にしか聞こえないんだが、決してそれをやってはいけないと言っているわけではない。例えば僕は差し戻すことにはばかることはないと思っている。いいことであればそこに向かって行けばいいと思っている。再考することはいいが、それをばんたびやっていると当事者側が何を基にやっているか、選択肢になかったから再考するでは、あれもこれもになりかねないから、その確認をしたい。

藤本哲史副市長：おっしゃるようなことについても内部で検討いたしました。先ほど申し上げましたように赤レンガ東土地については、今までこの病院の建設用地としては挙げてこなかったもので、これについては再度市民に対してもわかりやすく説明をしていくという点からも検討会議を行うということを出したわけですが、それでは今まで検討したところも再度検討し直すとか、赤レンガ東土地と再度比較考慮するとか、そういうことについては一定の結論は出ていると思っておりますので、そこまで差し戻して検討するという考えは持っておりません。

新美保博議員：結局のところそれは差し戻しでしょう。言葉の使い方が違うだけで一定の結論はもう出ている。市長が自ら言っている。赤レンガはどうかと聞いたが赤レンガは新庁舎を造るときに駄目だから、庁舎もできないところに病院は造れませんと言ったわけ。でも赤レンガ東土地に特化して再考すると言っている。それを例えば雁宿ホールや神田町まで行けということを言っているわけではない。それはわかる。でも赤レンガだけは再考すると言っているわけ。それは新庁舎を造るときに駄目だと言ったことを答えに出していながら選択肢にも入れていないにも関わらず、今度は再考するということです。それは差し戻しではないのか。

榊原純夫市長：おっしゃられるとおりで、全てではないにしろある部分差し戻しすることになりますので、これはあくまで先ほども言いましたが、ばんたびこんなことがあってはなりません。特例でやらせていただきたいと思います。以上です。

石川英之議員：僕はご存知のように新庁舎を造るときに特に赤レンガに持っていきと言っていました。その時に赤レンガでは駄目だと。アクセスの問題や渋滞などいろいろなことがある中で新庁舎には向かないということだったんです。にもかかわらず今回緊急を要するのは市役所か病院かといったら確実に病院だと思うんです。なのにあの場所に病院を考えること自体が間違っていると僕は個人的に思うんですよ。だって緊急性が全くない新庁舎でさえもあの場所では駄目だと言われて、泣く泣く納得をせざるを得なかった。にもかかわらず病院になったら急にあの場所に再度考えてみましょうかというのは。こんな検討会議まで立ち上げてまた話し合うというのは僕はいかななものかと思いますが。だまされたとは思っていないですよ。新庁舎の時はそういう判断を下したわけですから、それはそれでいいんですが、その時に市長が言った病院と消防と市役所の三位一体をまるきり覆すようなこういった検討会議を作るというのは正直言って僕は納得できません。けどもそれでは質問にならないので、何が起きてこの検討会議まで立ち上げるのですか。

藤本哲史副市長：赤レンガ東土地で病院の建設についての議論をするときにどのような場で検討したらいいのかということも内部で検討しました。一つの考えとしては現在、半田病院のあり方についての建設構想を策定する会議がございまして、その場で議論をしようかということもございましたが、それはむしろ半田病院の内部の構造であるとか性格だとか医師にも入っていただいている会議なのでそぐわないだろうと。また名古屋大学の石黒院長が座長であったあり方検討会議に再度検討を委ねるかという議論もいたしましたが、むしろ一旦答申をいただいた組織に再度検討をとということもこれはおかしいでしょうということになりました。だとすると新しい器をどこかで作って検討いただくということが一番わかりやすいのではないかとということから新しい委員の方をお願いし、さらには赤レンガ東土地に建設したらという提案をいただいた方にもご相談をして委員も選定し、今日こういう形で議論をしていきたいということになった経緯でございますのでご理解いただきたいと思います。

石川英之議員：あまり納得できるような、さっきから同じことの繰り返しのようには聞こえませんが、ちょっと冷静に聞かせてください。多分この3月に予算措置が何らかされると思っていたんですが、こうして考えると3月中にこの検討会議の答えが出てくるとなると予算のことも絡んでくるし、今後のスケジュールがどう変わってきているのか。変わるのか変わらないのかも含めて。何らかの予算措置を3月に本来、挙げてくる予定だったと思いますが、その辺はどうなってきますか。

三浦幹広半田病院事務局長：新病院建設構想は28年度予算をいただいて策定している途中でございます。その中には建設候補地がここですと。その敷地をこのように使いますよという敷地計画も作ってその計画が完成して28年度終了とい

うところで、29 年度以降については基本設計に向けて現在予算どりをしております。ただ 28 年度中に構想の取りまとめができなくなる可能性も出てきておりますので、29 年度に本来基本設計に向けて議論すべきところが積み残す形になりますので、それも踏まえた事業になってくると思います。そういったものについては補正予算を組むなり、何がしかの手が必要と思っております。

石川英之議員：そうするとスケジュール的にはさほど影響がないというふうに捉えておけばいいですか。

三浦幹広半田病院事務局長：3 月中にまとめることができなくなる可能性がありますので、そうなれば数か月遅れる可能性はあります。

新美保博議員：構想は 28 年度予算ということか。

三浦幹広半田病院事務局長：当初は 28 年度の予算で構想まで取りまとめて 29 年度の新しい予算で基本設計とそれに伴うコンサル業務を 3 か年に予算計上していただきますので 29 年度に予算計上するように進めています。構想が 28 年度中の 29 年 3 月までにまとまらなければその部分を積み残してしまいますので、当然積み残した部分については 29 年度に行わなければいけませんので、それを補正なりで追加してその項目をつけて 29 年度行います。だからその分遅れます。ということです。

石川英之議員：そうすると 29 年度の当初予算には載ってこないということですか。載らずにこの 3 月で遅れてくると 6 月なり 9 月なりの補正で対応していくということですか。

三浦幹広半田病院事務局長：29 年度予算では基本設計の予算をとります。それと基本設計を作るにあたって、現在委託しているコンサルについては、27、28 年に始まって基本建築構想を作るまでの 2 年間でコンサル業務を委託していますので、それが本来 29 年 3 月に終われば予算的にもいいのですが一部積み残す可能性がでてきますので、その分については次のコンサル業務に追加していくことになります。

新美保博議員：それは繰越の話。言っているのは 29 年度当初予算に載るか載らないかを聞いている。ないのだから載せてはいけないだろう。補正予算でやるなら当初予算に載せてはいけない。

澤田勝議長：先ほどの説明は載っていないということでよかったですか。

三浦幹広半田病院事務局長：29 年度は新たなコンサル業務の委託と基本設計に至るものを予算では査定の段階ですが組んでいます。

藤本哲史副市長：今の策定委員会の座長は私が務めていますのでそこにも触れてお話ししますと、当初基本設計や全体の病院としてこういう病院にしようという構想を 1 月中に出して早い時期に、つまり 28 年度中にパブリックコメントへ出して概要の計画を固めたうえで 29 年度の予算を提案していく予定でありました。ただ今回の赤レンガ東土地の問題とは別に議論すべき課題がいくつか新たに挙がってきてまして、そこがまだ議論の途中でありまして、パブリックコメントについても提案をする時期が遅れていくだろうと現在予測を立てております。いずれにしても 28 年度中には建設位置などは一定の見解が出せるように現在進めていますが、そこも含めて 29 年度中には一定の概要を提案したい。ただこれも赤レ

ンガ東土地での議論が場合によっては延びるということになれば予算編成も変わってまいります。現在まだ査定中ですが、新年度予算の提案に向けて、ほんの1か月ぐらいの間にどういう方向性をとっていくのかということもおよそ見えてきますので、その辺も十分生かしたうえで新年度予算を提案していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

中川健一議員：回答がよくわからないのですが、石川議員が質問された3月予算に新しい病院の具体的なことの提案をするのかしないのかということは、予算提案はとりあえずないという理解でいいのか。あるという理解でいいのか。そこは明確にしてほしいのですが。

榊原純夫市長：そういったことも含めて提案をさせていただきたいと思います。

中川健一議員：資料に戻りますが、誰が任命したかということと、それぞれの先生方、肩書きが立派な方が多いのですがどのような趣旨で選んだのか教えてください。

藤本哲史副市長：委員に対しての報酬は市の予算で行いますので、これは当然ながら市長が委嘱して委員をお願いすることになります。ただおそらくこういった原案はどこで議論したのかその根拠はということをお尋ねと思いますので、そこを簡単にお話しいたします。まず瀬口哲夫先生はご存知のとおり半田市の景観アドバイザーを長年やっただいてお立場で半田市全体の事業計画、総合計画を含めてご理解いただいている方です。なおかつ赤レンガ広場を整備するにあたっての検討会議の座長も務めていただきましたのでそういう点からも適任ではないかということをお願いしております。それから医師会会長の花井先生、医師会からということは発案者の浅野医師から提案がありましたので、その提案を受け入れたものです。それから水谷名古屋大学大学院教授は特に海岸における高潮の研究にあたっている専門家の方ですので水谷先生に入っていました。それから半田署の交通課長は交通関係の専門でございまして半田市内の交通状況については十分ご存知ですので入っていただきたいということです。それから赤レンガ広場一帯の住民の方のご意見もいただきたいということから先の区長を務めていた辻さんに入ってくださいといたしました。それから名古屋掖済会の北川救命救急センター長は、これも浅野医師からD-MATの関係の医師を入れてほしいとの要望でしたのでこれはそのように選考しご了解をいただいたところです。それから浅野周一先生は当事者の方です。それから半田病院からは副院長の渡邊先生と救命救急の統括部長の太平先生に入ってくださいという構成で人選をさせていただきました。以上です。

#### [その他]

- ・はんだ防災憲章の制定について

齊藤清勝防災監：資料に基づき説明

- ・評価システム調査特別委員会行政視察（11月14日－15日）報告

山田清一議員：行政視察報告書に基づき説明

質疑なし